令和6年度　大田区立大森第一学校　自己評価　報告書

○　本校の概要

令和7年2月28日

○学校教育目標　常に真実を見つめ、これを大切にしていく子どもを育てる　・健康で安全な生活ができる子　・思いやりがあり、仲よく助け合う子　・自らよく考え、行動する子
○学校規模：児童数549名　学級数18学級（各学年3学級ずつ）　教員数（長・副を除き正規教員数）22名
○令和6年度、開校150周年（令和6年2月14日）
○新設教科「おおたの未来づくり」を視野に入れ、令和6年度はおおた未来づくり研究実践校、大田区教育委員会教育研究推進校（1年目）、東京都授業改善推進拠点校（1年目）の実践を行う。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童アンケート「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができた」の肯定的回答の割合 85.3%	4：80%以上 3：70～79% 2：60～69% 1：59%以下	4	①校内研究や授業観察などを通して、様々な教科においてSTEAM教育の視点から、課題発見・解決的な学習を取り入れるよう意識して授業づくりを進めていくことができた。今後も継続的に多くの場面で取組をしていく必要がある。 ②おおたの未来づくり科の実施を見据え、総合的な学習の時間や生活科や他教科において、体験活動や自己を振り返る活動を取り入れるよう意識することができた。自己評価という部分で、しっかりと自分を捉えられるかどうか、それをどのように生かしていけるかが今後の課題である。 ③情報技術として、ICTは意識的に多くの教科で活用する場面が増えた。思考ツールも使い方を指導し、低学年から少しずつ活用できるような段階を踏ませることができた。しかし、まだ使いこなせるまでには教師側も児童側も至っていないので、継続的に時間を設定する、日常的に取り入れるなどして、活用場面を増やしていく必要がある。	A	10	・「自分で調べてみる。」「自分で考えてみる。」等「課題発見、解決」への取組みは評価できる。 ・ICT教育の推進に関し、低学年児童への、個人差に注意が必要。楽しく推進できているのかが大切。 ・取り組む意欲を重視することに、より生きる力を育成されると思う。 ・先生たちもいろいろな取り組みが多く、大変だと思いますが、こどもたちのためによろしくお願いします。 ・評価が私の知識不足と実現場を見れていない状況から「D」とさせていただきます。いつもありがとうございます。 ・さらなる向上を目指して研鑽していただくことを期待いたします。こどもたちへの教育尾の重要さと難しさを察しします。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3					B	1	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3					C	0	
									D	1	
個別目標2 世界と繋がる国際都市を担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童アンケート「自分や友達を大切にしている」の肯定的回答の割合 97.3% 保護者アンケート「児童に自分や友達を大切にする心が育った」の肯定的回答の割合 86%	4：2つのアンケートの割合が90%以上 3：2つのアンケートの割合が80%以上 2：2つのアンケートの割合が60%以上 1：59%以下	3	①外国語及び外国活動の時間に外国語教育指導員を活用した学習を行った。スモールトークやゲーム等を通して楽しみながら英語に親しむことができている。 今後も外国語を使ったコミュニケーション能力の伸長を図る。 ②令和7年度から全面実施となる大田区独自の新教科「おおたの未来づくり」について教員の校内研究を行った。本校独自の視点として、全学年で地域と連携し、地域の伝統芸能や産業を体験する学習を重視した。 ②国際感覚や環境教育、人権教育について、まずは自分を大事にすること、そして、人を大切にできることが大事である。その観点に立ち、学校や学年、学級等学校生活で児童が活躍できる機会を設け、他を尊重しながら互いに理解しようとする心の育成を行った。 ③ユニセフ集会を通し、世界の現状を学び、自分たちにできることを考え、募金活動等を行った。	A	9	・楽しく英語での会話を進める方向が大切。 ・アンケートで「自分や友達を大切にしている。」は、非常に重要な点です。 ・英会話は低学年から切れ目なく継続していくことが必要。 ・視野を広くもつことにより、よりよい社会人としての資質形成が期待できると思う。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3					B	2	
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3					C	0	
									D	1	
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮する ための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	ワークテスト国語、算数の目標平均点を1～4年は80点、5，6年は75点） 4：平均点以上達成 3：平均点より5点マイナス 2：平均点より10点マイナス 1：平均点より15点マイナス 算数 1～4年　算数平均80.2点、 5，6年算数平均72.点 国語 1～4年　算数平均79点、国77.8点 5．6年　国語平均77.8点 保護者アンケー「学校は児童が体力向上や健康教育・食育を推進し、基本的な生活習慣を身に付けるよう指導している」の肯定的回答の割合 4：90～100% 3：80～89% 2：60～79% 1：59%以下 90.4%	4：2つとも「4」 3：どちらも「3」以上 2：どちらも「2」以上 1：その他	3	①道徳授業地区公開講座では、全学級が授業を公開し、地域の方々や保護者に本校の道徳教育の様子を公開した。道徳性を育むために、授業のねらいや観点を精選し、児童の実態に合った題材を行うようにしている。 ②習熟度別学習や、学習時間講師の配置など、個に応じた学習支援体制をとっている。保護者会や個人面談の際には、学習カルテや、学力調査の結果、日々の学習の様子を伝えている。定着度や改善点も伝え、つまずきについて、より力を付け改善点を克服していけるように具体的な解決策を示し、継続的に保護者と連絡を取り、児童の学力向上に取り組んでいく。 ③「早寝・早起き・朝ごはん」月間への取り組みや、食育アンケート、一校一取組、体育朝会など、様々な機会を通して、健康教育から基本的な生活習慣の確立をねらっている。生活面では、本校の児童は特に睡眠時間に課題があることから、就寝時間の指導、運動習慣の指導を通し、規則正しい生活習慣の定着を目指していく。 ④保幼小、小中の一貫した連携を図るために、年間を通して様々な機会を設定している。保幼小は、低学年児童と保育園幼稚園の児童の交流を通して、小学校へのスムーズな繋がりを目指したり、情報交換の場を増やしたりすることを目的として実施している。小中連携は年間の小中一貫教育の機会を通して、お互いの授業の様子を参観することから、中学校入学までに必要な指導や準備について話し合い、事前指導へと繋げている。	A	10	・個々にあった指導は、重要で選択や希望が持てるような一層のサポートが大切。 ・日常生活の大切さが、人格形成に役立つ要素として期待できると思う。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4					B	1	
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4					C	0	
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3					D	1	

個別目標４ 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケート「授業が分かりやすく楽しい」の肯定的回答の割合 保護者アンケート「学校はこどもたちにとって分かりやすい授業をしている」の肯定的回答の割合 保護者アンケート 90.8% 児童アンケート 90.6%	4:2つのアンケートの割合が90%以上	4	①今年度は次年度から実施される大田区の独自教科「おおたの未来づくり」に先駆け、地域と連携し、児童が児童が興味関心をもてるような課題設定を行った。その中で、課題を解決するためのアイデアを個人で考え、グループ活動を通じて持ち寄ったアイデアを分類・分析し、よりよい考えを深めた。 ②自己申告の授業観察の指導案をC4thの校内掲示板に公開したり、授業予定を教員室の黒板に書いておいたりすることで、互いの授業を見合うことができた。授業後は、管理職だけではなく、参観に来た教員と授業についての話し合いを行い、助言等を通じて授業向上を図った。 ③分掌を割り当てる際には、昨年度までの分掌を割り当てると共に、人材育成を兼ねて若手教員をペアとなるように配置した。また、会議等の時間を短縮化し、教材研究やOJTに割り当てられるように、運営会議で十分に話し合いを行うことで質の向上と時間短縮を可能にした。次年度は、分掌の組織をまとめ、人員を増やすことで教員一人にかかる比重を軽減し、人材育成にも励んでいく。	A	9	・児童が興味・関心・知識等、異なった児童が一緒に考えていくことが理解度が大きく進むと思う。 ・やりがいから、達成感からさらなる向上が期待される。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:2つのアンケートの割合が80%以上			B	2		
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:2つのアンケートの割合が60%以上			C	0		
						1:59%以下			D	1		
個別目標５ 自分らしくいきいきと生きる ための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケート「困ったことがあったとき、先生は話を聞いてくれる」の肯定的回答の割合 94% 保護者アンケート「学校は児童の側に立った適切な指導と迅速な対応をしているの肯定的回答の割合 76.8% （「わからない」が15.5%） 保護者アンケート「学校は安全指導やいじめ防止について積極的に取り組んでいる」の肯定的回答の割合 75.4% （「わからない」が15.9%） 3つのアンケートの平均 82%	4:3つのアンケートの割合が90%以上	3(2)	①特別支援教育に対する教員の理解を深めるための研修を実施した。また校内委員会で対象児童の共通理解を基に適切に学びの場を保障するよう支援の方法について協議した。 ②いじめアンケートをもとに児童の友達関係での悩みに対して早期発見を意識し、早期対応を心がけた。今後も担任だけでなく、学年、BPC委員会など組織的な対応を心がけて、児童の安心、安全な学校を目指していく。 また、道徳の授業の中でも取り上げるなど、教育活動全般で心の教育を進めていく。 ③担任を通してスクールカウンセラー（SC）との相談を予約をする以外に、保護者から直接相談できるよう知らせている。また、「スクールカウンセラーだより」で、SCの来校予定日を知らせたり、児童が直接相談予約ができる「予約カード」を準備したりしている。問題行動、不登校問題等にかかわる児童に関して、定期的な情報共有を行い、児童の学校への適応を促す働きかけを行っている。今後もスクールカウンセラー、関係機関との連携を積極的に進め、課題の早期解決を目指していく。	A	9	・何でも「気付き」だと思います。ちょっとでもいつもと違うなお思ったら、疑いをもって対応していただいたら、いじめなどの発見も早期解決につながるのではないかと思います。 ・きめ細やかさ、隙間のない対応が成果に現れると思います。 ・早期発見・早期対応の減速が重要。問題発生した時にはきちんと相談していくことが今後も大切。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:3つのアンケートの割合が80%以上			B	2		
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2:3つのアンケートの割合が60%以上			C	0		
						1:59%以下			D	1		
個別目標６ 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「学校はタブレットPC等のICT機器を活用した教育活動を行っている」の肯定的回答の割合 87.5% 保護者アンケート「児童の安全意識が高まった」の肯定的回答の割合 68.6% 2つのアンケートの平均 78%	4:2つのアンケートの割合が90%以上	2	①今年度は、工事等もあり校庭の使い方について新しく取り決めを作り、実行した。 ３年生では、地域の特色として残る海苔作り体験を地域と連携して取り組んでいる。また、合わせて必要な学習用具についても昨年度からの引継ぎを基に準備を進めた。 ②避難訓練担当者だけでなく、全教員からの意見や助言を柔軟に受け止めて、日々実施内容をより良いものになるように変更して避難訓練を行っている。また、教育総務課等と連携し、交通安全指導を進めている。	A	8	・海苔作りの体験について、いつもこどもたちがしっかり授業を受けてくれる姿勢がとても印象が残っています。地域の取組についてもっと協力ができるといいと感じています。 ・安全教育が人間教育の基本とも思えるので評価した。 ・限られた環境の中で創意工夫をされている点は評価できる。 ・いつ、どこで災害が発生するかわからない。日ごろの訓練が大切で、継続していくことが重要。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:2つのアンケートの割合が80%以上			B	3		
						2:2つのアンケートの			C	0		
						1:59%以下			D	1		
個別目標７ 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート「学校は、地域の力を子どもたちの教育活動に生かしている」で肯定的回答の割合 85% （「わからない」が11.1%）	4:90%以上	3	①今年は開校150周年の取組により地域の方との交流が大変に多くあった。地域も保護者も学校の行事に協力いただき、本当に感謝している。これからも学校、家庭、地域が一緒になって本校の児童を育てていく。 ②毎日、朝校門の付近や交差点などで、児童にあいさつをしてくださっている。また、交通安全の際には多くの方が登下校時に見守りをしてくださっている。 ③学校保健委員会、道徳授業地区公開講座、体育健康教育授業地区公開講座、その他、歯ブラシ指導、ガン教育、セーフティ教室などPTAから保護者に声緒をかけていただくことがあり、大変にありがたく思っている。 今後は、たくさん参加していただけるような企画を一緒に考えていきたい。	A	10	・本年度の連携ありがとうございました。来年度もよろしくお願いします。 ・地域協力は、こどもたちを育てるには必要なものと感じます。150年と時だけで終わりではなく、何事も継続が必要だと思いますので、よろしくお願いいたします。 ・広く社会に注目を向け各自の発達に手助けになるとして評価しました。 ・150周年の取組を通じて学校・地域・家庭が一体感醸成されたと認識している。 ・挨拶のできない、しない児童が孤立化しているとかんじているが、成長していく過程で解決していくのだろうか。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80～89%			B	1		
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2:60～79%			C	0		
						1:59%以下			D	1		

〇「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
〇記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
〇学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載す